

第3回 野洲市観光振興指針策定委員会 要約議事録

●日 時

令和3年11月15日(月) 13:00～15:00

●場 所

野洲市役所 本館2階 第5会議室

●出席者

【委員】(全員出席 / 委員区分毎・50音順)

1号委員: 田中 勝也 委員長

2号委員: 木村 靖 副委員長、荒川 博行 委員、井口 幸恵 委員、川戸 良幸 委員、
北中 良幸 委員、仲谷 禎紹 委員、西田 秀孝 委員、松沢 松治 委員、吉川 文子 委員

3号委員: 武内 了恵 委員

【オブザーバー】滋賀県 商工観光労働部 観光振興局 観光企画室 奥本 晃士 主幹、

●事務局 環境経済部 商工観光課 行俊課長、藤村専門員、吉山専門員、田中主任

●傍聴者 無し

1. 開会 事務局(環境経済部商工観光課長)
(野洲市ボランティア観光ガイド協会様への市政功労者表彰について紹介。)
2. 挨拶 田中 委員長 挨拶
3. 議題 「野洲市観光振興指針(案)」の確定について 事務局より資料に基づき説明
(
 - ・第2回策定委員会での結果(再検討課題)を説明。
 - ・上記結果を踏まえて再検討した指針(案)の修正点について説明。)
～ 委員による意見交換 ～
4. その他 事務局より以下について説明。
 - ・今回の委員会で各委員よりご指摘いただいた貴重なご意見を尊重し、委員長及び事務局にて指針(案)を再調整する。
 - ・委員会としては今回が最終回となるが、今後パブリックコメントを求めるほか、市長からの意見等があれば、協議等を踏まえ、文言等の調整を事務局にて対応させていただく点について各委員にご了承いただいた。
5. 閉会 木村 副委員長 挨拶

結 果

委員の皆様にご活発に議論いただいた結果、主に次の点を再検討して指針（案）を確定し、パブリックコメントを求めた後に最終指針として確定することとなった。

- ・野洲市の入り口であり情報発信の拠点となる「観光案内所」の重要性について指針（案）にも反映させる。
- ・「情報発信」の重要性を踏まえて、指針（案）への記載方法を工夫する。
- ・「スポーツ・レクリエーション」は野洲市の観光目的として割合が高い。そのフィルターを通した観光振興を図る旨の記載を検討する。
- ・表紙の三上山の写真の選定について再検討する。

主な意見・質問

【委員】 P14 の課題について、例えば「観光客の視点」に「D 地域経済の活性化」の記載が無い点や「観光提供者・地域の視点」に「C きめ細やかな情報発信」の記載が無い点については、抜けているのではないかと？

→【事務局】 抜けている訳ではない。第 1 回策定委員会にていただいたご意見や総合計画策定時に把握した課題をカテゴリー分けして整理した結果として主な課題のみを記載した。一見すると課題が無いように見えるため記載を再検討する。

【委員】 教育分野における観光体験の活用の重要性について、前回までの策定委員会においても多数の意見があったが、現状として可能なことは何か？

→【事務局】 これまでの策定委員会での結果についてはその都度、教育委員会へ報告している。そのなかで現状として可能なこととしては、例えば、学校教育のなかで子どもに参加いただける体験型観光を集約したものを校長会等で情報提供すること等はすぐにでも実施可能とのこと。ただし、予算の関係で可能不可能は出てくると思われる。

→【委員】 学習船「うみのこ」の宿泊体験型の教育等の例もあるように、お金ではなく子どもたちがその体験を通じて得られるものの大切さを PR していかなければならない。観光における子どもたちへの教育の重要性を感じる。

【委員】 訪日外国人旅行者数について野洲市への訪問人数も検討すると良い。

→【委員】 様々な取り組みの中で外国人の訪問もあり、国際協会との協力・連携も充実していくべき。

【委員】 情報発信について、観光客等の野洲市へ来られる人が発信できる仕組みを検討すると良い。

→【委員】 同感である。実例としてインスタグラムへの投稿によって県外から訪問される方もあった。

→【委員】 情報は古くなっていくのでできるだけ HP 等の掲載にした方がよい。

P20 の基本戦略 3 の情報発信から各重点事業へ伸びている矢印は太くした方がよい。また、来られた人に SNS で情報発信していただいたり、フォローしていただけるような仕組みづくりは大変重要。

- 【事務局】野洲市観光物産協会のInstagramの活用方法を工夫し、今後も充実させていきたい。
- 【委員】先日クラウドファンディングを実施し目標達成したが、情報発信媒体として紙媒体の重要性も感じた。QRコードを掲載する等の工夫をすることで広がりをもてる。

【委員】P18の「D 地域経済の活性化」について、全体とミクロの部分に分けて考えた方が良い。野洲市は、例えば「家棟川エコ遊覧船」の活性化など、まずはミクロの部分から主体的に取り組む必要がある。また、野洲市の特産物販売所の充実については今後も特に重要だと思う。

【委員】先週に滋賀県文化財保護課の主催で健康増進ウォーキングが実施された。野洲市ボランティア観光ガイド協会様のご協力のもと、旧中主町役場から出発し兵主大社をめぐるっていただいた。また、びわこ放送を通じて動画の作成等もされ、情報発信に活用されている。滋賀県文化財保護課は現在、文化スポーツ部にあり、文化財は過去のものとしてではなく、未来に生きていくものとして位置づけられている。（「文化財を活用した健康増進ウォーキングガイドブック」の紹介）

【委員】P18「D 地域経済の活性化」において、滋賀県内の多くの観光地のなかで、さらに野洲市を選んでもらえるようにするためにはやはり「近隣との協調の視点」が重要である。

【委員】先日、アウトドアメーカーがキャンプ場にて広告ロケーションをされた。そのなかでアウトレットでの割引リーフレットの配架を提案され誘客促進に努力されていた。
また、毎年同じテーマで実施されているバスツアーがあるが、毎回異なる方々が参加されていて回を重ねるごとに好評となっている。観光バスツアーの可能性を感じる。

【委員】第1章のP4の「2. 指針の概要」の副題の記載については削除し、「第1章 指針の策定（改定）にあたって」の直下に「2. 指針の位置づけ」と「3. 指針の期間」を入れて整理し直すべき。
また、説明の流れからするとP4の図1「SDGs」とP5の図2「指針の位置づけ」の掲載箇所を逆にするべき。

【委員】野洲駅の南口は気軽に観光について聞ける場所が無い。野洲市への入り口として何か必要であり、そういった場所で情報発信することで初めて来られた方の行動につながる。

【委員】表紙の三上山は、山の上部のみが写っていて、市外の人々が一見して三上山とは判断できない写真である。これも情報発信方法の重要なところで、みんなが見て三上山だと思える写真を使ってほしい。（例として、インターネット上に掲載のある三上山の写真を情報提供。）

【委員】P13の図12に記載のあるように、野洲市の観光目的の割合としてはスポーツ・レクリエーション等の4つのカテゴリが多いということである。P14の図13「観光素材となる可能性が高い分野」としてもスポーツ・レクリエーションの位置づけを再検討するべき。

【委員】P20の「課題C きめ細やかな情報発信」とあるが、情報はきめ細やかでなくて良い。概ねでよ

いので伝われば良い。

P26 の重点事業のイメージ図のなかに「情報発信」の概念が抜けている。各事業の中心にくる形でコミュニケーションとしての「情報共有」などの記載が必要。

【委員】 JR の終着駅として「野洲行き」があるなかで、そこから観光案内所につながれると良い。

→【事務局】 P24 の基本戦略 2 の中には記載しているが、駅前周辺で観光の拠点スペースを検討していきたい。

【委員】 これまでも言い続けていることだが、野洲駅からの交通アクセスの問題が大きい。根本を見直す必要があり、そこが解決できなければ事業を続けることができない。めんたいパークびわこのオープンに当たって守山市ではタクシー会社が補助金をもらって送迎を行うらしい。

【委員長】 守山駅からの湖岸へのアクセスは何か工夫されているのか？

→【副委員長】 湖岸には主だった観光が少ないので必要性が無い状況。

→【委員】 北口からの路線バスは激減しているが、めんたいパークびわこのオープン後、増客になればバス会社の方針が変わる可能性もある。

【委員】 今回の委員会でも多くの意見が出ているが、「観光案内所の位置づけ」、「表紙の三上山の写真の工夫」、「情報発信のプライオリティの考え」、「スポーツ・レクリエーションのフィルターを通すこと」などが主な検討課題と思う。インフラはすぐには難しいが将来的には考えていかねばならない。

【副委員長】 ・P1 の市長のコメントについては、市民目線の市長としての言葉を期待する。

・観光案内所の検討では、例えば場所を取らない形として「案内パネル」を将来的にできたら良いと思う。QR コードをたくさん取り入れて、簡単に最新情報を取得できるパネルを検討できれば良い。

・JR 野洲駅の駅名を「希望ヶ丘野洲駅」等に変えるなど、野洲に来たら何があるかを情報発信できる駅名にする等、大胆な取り組みが必要。

【オブザーバー】 滋賀県のビジョンについては現在、琵琶湖版の SDGs である MLGs（マザーレイクゴールズ：「琵琶湖」を切り口とした 2030 年の持続可能社会へ向けた目標）を取り入れて改定中である。野洲市において同様に MLGs を取り入れられないか？

→【委員】 MLGs はまだ公認されたなかでの活用としては定着していない。

→【委員長】 MLGs を取り入れるかについては、一度事務局と共に考えてみてその結果としてどうするかを検討します。

【オブザーバー】 P19 の「基本理念」の枠の下に記載のある「～野洲市に来て観てみたい、来たら楽しい …… 観光振興を進めます～」が「目指す姿」ではないか。また、滋賀県のビジョンでは観光に関する「数」だけでなく「質」を測れる指標を検討している。

→【事務局】 「目指す姿」の記載については再検討する。また指標については今後の滋賀県のビジョ

ンの改定に伴い参考にさせていただく。

→【委員】指標である観光入込客数を捉えるものとして、モバイル空間統計データというものがあるが、外国人のデータが少なすぎる。これまでの統計+モバイルという形が望ましい。

【オブザーバー】課題の記載方法について、A~D 毎の分類のなかに「観光客の視点」と「観光提供者・地域の視点」を入れる方法にしても良いのではないか？

→【事務局】検討する。